

| | |
|------|------|
| 報告者名 | 藤原 勉 |
|------|------|

| | |
|--------|-----------------------|
| 報告タイトル | 舎飼い状況下でのヒツジの無機物栄養について |
|--------|-----------------------|

| | |
|-------|----------------|
| キーワード | ヒツジ、舎飼い、無機物栄養、 |
|-------|----------------|

【参考文献】

| |
|--|
| <i>Mineral status of grazing sheep in dry area of Midland China. AA J. Anim. Sci., 8: 179-186. 1995.</i> |
|--|

【要旨】600字

反すう家畜は低質な粗飼料を有効に利用することができるが、一方過放牧による砂漠化現象も深刻な問題となっており、近年中国人民共和国では、砂漠化対処策の一環として退耕還林・還草政策の施行後、ヒツジの飼養形態を舎飼いに変更し、放牧を全面禁止した。しかし給与飼料(草種等)の限られるこのような飼養状況下では、栄養の不十分な状況が考えられヒツジの生産性低下が懸念される。今回このような地域、特に寧夏におけるヒツジのミネラル栄養について調査し、環境改善と家畜生産のあり方について検討した。

2003年および2004年の8月に、寧夏回族自治区、特に南部山区における19戸の小規模農家で舎飼いされているヒツジ194頭から採血を行い、血液中硫黄(S)、カルシウム(Ca)、リン(P)、マグネシウム(Mg)、銅(Cu)、亜鉛(Zn)およびセレン(Se)濃度を測定した。また給与されている主要な飼料中ミネラル濃度も併せて測定した。今回調査した地域内での、主要な給与飼料はワラ類、青刈りの雑草や栽培草であるアルファルファであり、補助飼料として粉碎したトウモロコシ、雑穀や農業副産物(糠類等)を添加していた。これらを混合した飼料中のS、Ca、P、MgおよびCu濃度はヒツジの要求量を満たしており、これらの血液中濃度も概ね正常値範囲内であった。また穀類・農業副産物の添加程度によって飼料中S、P、ZnおよびSe濃度が異なる傾向が認められた。血液中ZnおよびSe濃度が欠乏値(下限値)をかなり下回った個体が存在したが、全体として明らかな欠乏症状は認められなかった。